

懇親会レポート

5月31日(土) 会場：老房 神戸店

記念総会1日目の夜、会員様とリラックスしたひとときを楽しみました。

開会

事務局では手作りの団扇と「10」のゴールドバルーンでお出迎え。卒業期をシャッフルするため、席はくじ引きで決定しました。竹林先生、四宮先生、稲田先生、相原先生、竹内先生、柴田先生、片倉先生、吉田先生を囲む形で着席。楽しい会にするため、司会は「ヒゲダンス」で登場し、吉田先生の音頭で乾杯！会場はあっという間に会話の花が咲きました。

18:30



HCPSインスタライブ

19:00

相原先生と片倉先生がテーブルごとに突撃インタビュー！既にみなさんほろ酔いです。



各テーブル対抗TME香りあてクイズ

19:30

紙コップに入れたコットンに6種類の精油をしみこませ、正解した数をテーブルごとに競うクイズ。アロマセラピストの名にかけて、みなさん真剣な表情で香りを嗅ぎわけていました。勝ちテーブルには神戸のお菓子をプレゼント！！



お見事！
全問正解

来賓と相原先生のお言葉

20:00

相原先生からJCAA創立に至るまでのお話がありました。先生方とお話が尽きることはありませんでした。

正解
パチュリ・ペパーミント・
プチグレン・柚子・
ラベンダー・ヘベス



閉会の言葉

20:15

総会会場でスクリーンに映し出された、思い出写真のポーズを再現して登場した稲田先生の言葉で会は締めくくられました。



閉会

20:30

初の懇親会は予想以上に大盛り上がりでした。次回も開催を検討中です！



aromapio

日本臨床アロマセラピスト協会

発行：2025.9

創立10周年 総会号

創立10周年記念総会

「Next 10 years」～これまでの10年、これからの10年～

2025年5月31日(土)・6月1日(日) 神戸国際会館セミナーハウス

JCAA創立10周年記念総会が2025年5月31日(土)、6月1日(日)の2日間、発足の地神戸で開催され、全国から150人の会員様がご参加下さいました。「Next 10 years」～これまでの10年、これからの10年～をテーマに、NPO法人マギーズ東京の秋山正子先生、甲南大学名誉教授の田中修先生、日本統合医療学会代表理事の伊藤壽記先生、HCPS学院長の相原由花先生、HCPS精油学主任講師の柴田由紀子先生をお迎えし、貴重なご講演を賜りました。また、会員様の活動報告・分科会、懇親会と2日間の総会を盛会のうちに終えることが出来ました。ご参加ならびにご尽力くださった皆様に心より感謝申し上げます。



開会の挨拶

JCAA代表理事 竹林 直紀先生

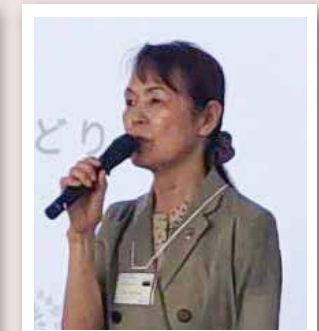


日本臨床アロマセラピスト協会は創立10周年を迎えました。また、2001年に相原先生が関西医科大学心療内科学講座にアロマセラピストとして入局してから約四半世紀が経ちました。当時、大学医局にアロマセラピストが入局するのは非常に画期的で、まさに相原先生は“ファーストレディ”として道を切り拓きました。私はそれ以前に米国で統合医療やホリスティック医学を学び、帰国後に相原先生と出会い、共に鍼灸師など多職種と連携しながら統合医療を日本で広げる活動を始めました。相原先生によるアセスメントで通常の医療以上の成果が出ることもあり、臨床現場で活躍出来るアロマセラピストの養成が研究テーマとして始まりました。みなさんは現場で、アロマセラピーを実践する壁にぶつかることがあるかもしれません。このスクールの講義には相原先生が道を開いた、そのエッセンスが全て入っています。これからの10年はみなさんが“ファーストレディ”として前進する役割が期待されています。そのための情報を今回の総会で得て頂くことが出来ればとても嬉しく思います。

来賓紹介



四宮 敏章先生

奈良県立医科大学附属病院
緩和ケアセンター長

平井 みどり先生

神戸大学医学部附属病院
教授

総会司会



小島 雅美さん

東京4期
関東支部評議員

中根 逸美さん

名古屋10期
クリニカル10期
東海支部評議員

01

特別講演

あなたの力を信じて引き出す支援を ～マギーズ東京の試みから～

■ 秋山 正子先生 ———— 認定NPO法人マギーズ東京共同代表理事 センター長



当日の講演

マギーズ東京の開設に至るまでの経緯、活動が話されました。

マギーズ東京は「HERE WITH YOU」を称号に「病院でも家でもない居場所」「病気であっても、患者ではなくひとりの人間に戻れるこじんまりした家庭的な居場所を」柱に、がんにより影響を受けている人が、自分の気持ちや思いに気づける、がん以外のことも考えられるようになること、そして本来の自分に立ち戻り「自分の人生で何が大切か」を考えられる、自分の力を取り戻す場として開設。講演では実際のマギーズ東京の様子を映像で見ることができ、ほっと一息できる心地のよい、安心できる場所と感じられました。

「支えると支えられるが循環する社会」弱い人、強い人をわけるのではなくお互いを助ける、助けられる「お互い様」と助け合っていく社会が、人間としての自信を取り戻すことにつながることを話されました。

会員様の感想

マギーズのような場所があることに驚きました。こうした場がもっと広がり、身近なところにもあって、救われる人が一人でも増えてほしいと思いました。



マギーズの活動、受援力、心の声を聴く場は環境を整える事が大切であることを学びました。



マギーズの存在に感銘を受けました。そこは、肩書きや役割を離れ、素の自分として過ごせる場所であり、安心して涙を流せる空間だと感じました。



02

特別講演

AI時代にアロマセラピストは必要とされるのだろうか

■ 相原 由花先生 ———— ホリスティックケアプロフェッショナルスクール学院長
英国ITEC認定アロマセラピスト 看護師・保健師・看護学博士

当日の講演

AIが進歩している現在、私たち臨床アロマセラピスト®の未来はどうなっているのか、10年後、30年後、50年後の結果をAIに聞いてみた話をされました。

AIが未来の臨床アロマセラピスト®を描き、ヘルスアプリなどで患者さんの状態を確認し、必要なアロマのブレンドを提案、その情報を元にセラピストが施術を行うことになると思われ、「AIと人間のハイブリッド型」に進化、未来のアロマセラピーは二極化するのではないかと考察されていました。しかしこれからの未来でAIが人間を超えることになっても、臨床アロマセラピスト®が一番大事にしなければならない、失ってはならないことは「直観」であり、AIがどんなに発展しようとも我々人間である以上、人を癒すためにいる以上、人を大事に思い、人をケアし、癒していくことを絶対に崩してはいけません。「人間でしかできないことが私たちの大切な役割になる」と未来の臨床アロマセラピスト®へ注ぐ熱い思いを話されました。

会員様の感想

相原先生の講演を久々に聴いて、スクールにワクワクしながら通った頃を思い出しました。



タッチケアは、AIや環境が進化しても、人間対人間に必要なケアであると再認識できました。



相原先生の声は、私の奥底にいたものを引き出し、悩む時、立ち止まる時の原動力です。



活動報告01

ケアルームの現状からみる地域課題とセラピストの役割

■ 内藤 可奈さん (東京9期) ———— プロフェッショナルアロマセラピスト

山梨県甲府市にて2023年HolisticAromaCare結心〜ゆこ〜を開業され「ゆらぎ期女性(未病)」を軸にアロマケアを提供している内藤さん。ケアルームにおける日々の活動の中での様々な気づきを発表されました。「ホリスティックな視点を持つアロマケアが果たせる役割は非常に大きいと感じる」と話され、実際ケアルームでの出来事から地域に住む女性には、様々な課題を抱え地域との接点がないままにいる人たちが多くいると感じ、アロマケアをもっと身近に感じてもらえる、外にできるきっかけや人が集まれる場所として月1回、アロマハンドケアカフェを開催する活動もされています。「その手は何のためにあるのか」セラピストの手が地域の多くの方に届くように、活動を広げ続けていきたいと話されました。



活動報告02

高齢者へのアロマセラピーの実施の導入について

■ 竹平野 里絵さん (エルダー5期) ———— エルダーケアアロマセラピスト®

三重県熊野市周辺地域と津市などの高齢者デイサービスや高齢者サロンで活動され、現在は障害者生活介護施設で生活支援員アロマセラピストとして勤めている竹平さん。高齢者施設でアロマセラピーを取り入れるまでの経緯、導入のきっかけを発表されました。

「アロマの力はマッサージだけではない」と利用者の五感を刺激し香りを楽しめる様々なレクリエーションを考案され、「認知症があっても、目が見えなくても耳が聞こえなくてもどんな人でも参加できたことがよかった」と利用者や職員から信頼を得て、現在も活動を続けられていると話されました。今後の夢は福祉の現場で、支援の方法のひとつにアロマセラピーが選択肢に加えられること、そのための普及活動を続けケアの現場に立ち続けていきたいと話されました。



01

イベント報告

「生と死を考える会全国協議会全国大会in豊橋」でのアロマセラピー提供について

■ 前原 右子さん (クリニカル8期) ———— 臨床アロマセラピスト®

愛知県豊橋で開催された「生と死を考える会全国協議会」に「豊橋・ホスピスを考える会」の一員として当大会の企画段階から参加、アロマハンドトリートメントを提供された活動を発表された前原さん。さまざまな死生観を持つ来場者を受け入れる心の準備、自分なりの死生観を持って参加することが重要であったと話されました。このイベントを実現できたのは、豊橋を中心に活動されているJCAA会員8名と協力し合えたこと、そして期を超えた仲間とのつながりがあったからこそ達成できたのだと話されました。



02

イベント報告

「#栄でチルする？」子ども・若者へのアロマハンドマッサージ

■ 中野 里美さん (クリニカル11期) ———— プロフェッショナルアロマセラピスト

名古屋子ども青少年局家庭課が主催する月1回のイベント「#栄でチルする？」に参加された中野さん。家庭や学校に自分の居場所が見つからない子ども、若者の犯罪被害を未然に防ぐ目的で開催されており、来場した子ども、若者たちにアロマハンドマッサージを提供した活動を発表されました。活動当初は警戒心が強かった子ども、若者たちがイベントの度に会いに来てくれるようになった変化を話されました。来場した子ども、若者たちが抱える様々な悩み・問題を目の当たりにされ、安心してほっと過ごせる「居場所」作りの重要性を感じたと話されました。



03

イベント報告

企業主催の社内睡眠イベントに参加して～企業におけるアロマセラピーの有効性～

■ 片倉 由恵さん (クリニカル11期) ———— 臨床アロマセラピスト®

東邦ガス株式会社が実施した社内向け睡眠イベントに参加された片倉さん。社内イベントでの活動の様子を発表されました。参加された従業員の多くは睡眠に関する悩みを抱えており、お話を聞きながらアロマハンドマッサージを提供。受けられた方は「セラピストとお話しできいい機会だった」「今後も続けてほしい」と良い反応があり、アロマセラピストとして睡眠のサポートができる可能性を実感。これから健康経営に取り組む企業が増えると思われ、新たな活動の場を広げる取り組みを続けていきたいと話されました。



基調講演

キュアーからケアへ ～ヒトの進化から見た”光”と”影”

■ 伊藤 壽記先生 —— 日本統合医療学会代表理事

当日の講演

伊藤先生は、「超高齢化社会」と呼ばれる現代について、ヒトの進化の“光”と“影”を交えて話されました。“光”とは、人類が直立歩行を始めたことで手を使い、技術を発展させ、脳が発達して文明を築いたこと。一方“影”は、直立歩行により脊椎に負担がかかり、加齢とともに腰痛や誤嚥が起こりやすくなった点です。現代は、病気を治す「キュアー」の時代から予防し症状を停滞させる「ケア」の時代へと移行しています。認知症などの加齢による症状も、運動や人との食事、五感を刺激することで 予防が可能であり、嗅覚を刺激するアロマセラピーも 有効と考えられます。そして、ヒトの進化はまだ終わっておらず、今も発展途上にあると話されました。



会員様の感想

キュアーからケアへ 進化は終わっていない、発展途上にある、その事から更に進化を遂げられる様に細胞から見直さなければいけないと思いました。



五感を刺激するケアの話が印象に残りました。その中の方法の1つにアロマが挙がっており、自分がやろうとしている方向性に自信をもらえました。



03 特別講演

私たちの命を支える植物たちの“力”

■ 田中 修先生 —— 甲南大学名誉教授

当日の講演

田中先生は、人類の歴史が約20～30万年前に始まったのに対し、植物は恐竜時代から存在し、古くから人類の健康を支えてきたと話されました。例えば、痛風の治療薬はイヌサフランという植物から作られています。また、日本人の長寿の秘訣には、国内産の質の高い農産物や、大豆製品を使った和食文化があると話されました。アメリカFDAでは、枝豆が「EDAMAME」として動脈硬化予防の食品に登録されていることも紹介されました。近年では、赤ワインやビール、緑茶の成分に認知症予防効果があることが分かっており、植物の力をバランスよく食事から取り入れることの必要性が話されました。さらに、記憶力を高めるローズマリーや、秋田スギの香りにはアルツハイマー病の症状改善が期待されており、植物の香りの力は今後さらに発展していくと話されました。



会員様の感想

植物の歴史や疾患、健康、未来について話を聞く事ができ、植物の恵みを取り入れて生かされているという事が分かりました。



最近、食生活がかなり疎かになっていましたが、改めて植物の力を再認識し、食事の見直しをしたいと思います。



04 特別講演

世界のアロマセラピー業界の今とこれから -2024 AIA Aromatics in Action® に参加して感じたこと

■ 柴田 由紀子先生 —— HCPS 精油学主任講師

当日の講演

柴田先生は、アメリカ・テネシー州ナッシュビルで開催されたAIA（国際アロマセラピスト連盟）の総会に参加されました。コロナ後初の対面開催で、「持続可能なアロマを受け入れ、創る」をテーマに、世界中の参加者と交流を深めました。講演では、精油原料の調達における生産者や環境への配慮、専門家としての知識と安全性、地域や伝統とのつながり、持続可能なビジネスモデルの重要性が語られました。これらすべてがそろって初めて、持続可能なアロマセラピーが実現すると話されました。また、コロナ禍を経た今こそ、知識や経験を共有し、つながりを大切にしながらアロマセラピーをさらに発展させていく必要があると話されました。現地ではNature'sGift社も訪問され、少数精鋭で顧客の声に丁寧に向き合う姿勢から、精油に対する誠実な取り組みが感じられました。



会員様の感想

世界のアロマセラピーの今を知ること、新しい情報を受け取り学び続けることの大切さを改めて感じました。



本でしか見たことがない方との交流のお話や、海外での雰囲気がとても伝わって来ました。



昼食、会員同士の交流

lunch time

10周年ということで遠方からいらした会員様も多く、神戸の観光を兼ねて楽しんでいました。皆さん、久しぶりに会う同期や新しい仲間との会話に花を咲かせ、とても盛り上がっていました♪



Kobe Aroma Company特別販売



Kobe Aroma Company オリジナルブランド「aroma vitae」（アロマヴィーテ）商品の特別販売が行われました。今回は希少なイラン産のローズオットーや、ライラックなどがお披露目され、初めて出会う良い香りを楽しまれている会員様が多くいました。2日間開催ということもあり、普段よりゆっくり買い物を楽しまれる方が多かったです♪



会場を彩った御祝のお花

平井みどり先生、佐々木伸先生、ホリスティックケアジャパン様より、創立10周年のお祝いとして、華やかなお花を頂戴しました。いただいた花々はミニブーケにして、参加者の皆様へプレゼントさせていただきました。



活動報告03

乳幼児から超高齢者まで、アロマセラピスト4年生の働き方

堀内 理恵さん（チャイルド4期）——— チャイルドハビリテーションアロマセラピスト®

現在、自宅ケアルーム（笑心の香）、JCAAボランティア活動の引率、lifetouch神戸南店、そして看護小規模多機能型居宅介護事業所にて、アロマセラピストとして幅広く活動されている堀内さん。今回は、看護小規模多機能型居宅介護事業所での、医療的ケアが必要な重度心身障害を持つ子どもたちへのアロマセラピーの取り組みについて発表されました。当初は不安や戸惑いもあったそうですが、チャイルドハビリテーションコースでの学びと実践を通じて、不安が少しずつ解消され、子どもたちと「ともに時間をかけて成長する仲間」としての絆を築いてこられました。子どもたちが感じる「嬉しい」「楽しい」という瞬間を大切にしながら、その子らしい成長を見守る関係性を育まれています。また、同事業所では高齢者へのアロマケアも月2回実施されており、世代を超えた心のつながりや、自己への信頼を育む力を日々感じておられます。これからも専門職の方々との連携を深め、理解者の輪を広げながら活動を続けていきたいと仰っていました。今後、10年後の自分を思い描きながら、目の前のできることを継続し、挑戦と学びを続けていきたいとも話されていました。



活動報告04

公的報酬内の訪問看護にアロマケアを取り入れた実践報告

垣野内 恵子さん（クリニカル14期）——— 臨床アロマセラピスト®

千葉県浦安市にある聖隷訪問看護ステーションで、看護師・介護支援専門員・臨床アロマセラピスト®として活躍されている垣野内さんは、2022年より、公的報酬内の訪問看護にアロマケアを導入されました。総会では、その実践内容と成果についてご発表いただきました。導入にあたって一般看護師に対し、アロマケアの目的や効果、施術方法について具体的に説明され、看護ケアの一環として取り入れる意義を伝えてこられました。症状に応じて、精油や施術部位を選定し、ケアの評価を行いながら、必要に応じて中止や変更も行うよう指導されています。こうした取り組みにより、現在では一般看護師からもアロマケアの提案が出るほど理解が深まり、チーム全体での実践が進んでいます。ステーションでは利用者の約18%がアロマケアを受けられており、痛み・不安・浮腫・睡眠障害・呼吸苦などの症状を抱える利用者に対し、10～15分程度の部分的施術や芳香浴を提供。使用する精油の管理や使用状況の記録も徹底されています。アロマケアを受けた利用者からは「心まであたたかくなった」「香りで呼吸が楽になるなんて初めて」といった声が多く寄せられ、アロマケアが心身のケアにおいて重要な役割を果たしていることがよくわかりました。最後に、今後の課題として、新人看護師への技術継承と、セラピスト退職後も継続可能な運用体制の構築が挙げられ、今後も継続的にアロマケアを日々の看護の中で根づかせていきたいという願いが込められていました。



活動報告05

終末期ケアを受ける同期の友人へのアロマセラピーを経験して

山口 朋美さん（クリニカル9期）——— 臨床アロマセラピスト®

地域医療を支えるケアミックス病院の緩和ケア病棟で、看護師・臨床アロマセラピスト®として勤務する山口さん。総会では、名古屋9期の同期であるNさんの症例を発表してくださいました。がん闘病中だったNさんは、山口さんの勤務先の病院に入院され、入院中アロマケアを受けられました。アロマケアを通して語られたのは、家族との思い出、一人で過ごす不安、そして自宅で愛用していた精油の話。「寝るのはもったいない」「今日はゆっくり寝れる」「アロマは本当に幸せになれる」と、香りに包まれながら笑顔で話されるNさん。退院時、Nさんは「アロマにも、朋美さんにも本当に助けてもらったよ、ありがとう。生まれ変わったらもっと早くにアロマの勉強をしたいな」と語り、大切にされていたアロマの本を「朋美さんはアロマを続けてね。私が持っていてもう読めないから、朋美さんに使ってほしい」と山口さんに託されました。香りと触れるケアが心をほぐし、思いを引き出す力になることを実感した山口さん「これからも一人でも多くの患者さんに寄り添うアロマセラピーを続けていきたい」と発表を終えると、会場には、まるでNさんもそこにいらっしやるような、あたたかな雰囲気が漂っていて、香りがそっと空間を包み込んでいるようでした。



分科会

分科会では、活動報告の発表者を中心に、「病院」「訪問」「障害児」「高齢者」「個人・ケアルーム」の5つの分野に分かれ、意見交換が行われました。現場での悩みや疑問を率直に語り合いながら、互いの実践や工夫を共有する貴重な時間となりました。参加者からは「同じ分野で頑張る方々と話せて、アドバイスをもらえた」との声もあり、これからの活動への意欲が高まる時間となりました。



お楽しみ抽選会

10周年を迎えた記念総会では、感謝の気持ちを込めて10名分の素敵なプレゼントをご用意。抽選で見事1等を獲得されたのは、なんと「番号札10番」をお持ちだった澤口さん！10周年にふさわしい“10番”の快挙に、会場は歓声と拍手で大いに盛り上がりしました。



閉会の挨拶

東海支部評議員 竹内淳子さん



今回は
名古屋開催



創立10周年という節目を迎え、記念総会を2日間にわたり開催いたしました。多くの皆様との再会を果たし、貴重な講演や活動報告、イベントの発表など、例年以上に充実した内容をお届けできたことを、心より嬉しく思っております。ご講演いただきました先生方、ご発表くださった会員の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。本協会は、皆様一人ひとりのお力によって成り立っております。今後もぜひ、活動のさらなる発展にご協力いただけますと幸いです。できない理由はすぐに思い浮かぶものですし、できなかったことは反省点として心に残るものです。しかしながら、「できたこと」や「今できること」に目を向け、それらを大切にしながら、次の10年を見据えて、来年の11年目の一歩を共に踏み出していまいりましょう。

次回、第11回総会は2026年5月31日（日）、名古屋にて開催いたします。「ゆっくりおいでよ、ジブリパーク」もごございますので、ぜひ足をお運びください。今回の記念総会開催にあたり、ご準備を進めてくださった関係者の皆様、そしてご参加くださった皆様に、心より御礼申し上げます。皆様のご健勝と、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

JCAAでは公式アカウントを通じて、
・イベント開催情報
・ボランティア募集のお知らせ
・会員様からのお知らせ
・活動の様子や参加者の声
・など、さまざまな情報を発信しています。

「こんな情報載せてほしい」「こういう活動も知りたい」など、ご希望がありましたらぜひご連絡ください。また、皆さまからの「いいね！」や「フォロー」が活動の大きな励みとなっております。今後とも、あたたかいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。（連絡先：info@jcaa.net）

